

富士見町地球温暖化対策推進委員会

令和5年度 委員会の概要



次第

- 令和5年度 第1回 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -

日時：令和5年7月11日（火）13：30～

場所：富士見町役場 302・303会議室

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 委員会設立の背景及び委員会設置要綱の説明
4. 委嘱書の交付
5. 自己紹介
6. 議 事
 - (1) 委員会の役割及び町の目指す姿について
 - (2) 富士見町脱炭素ビジョンの概要について
 - (3) 意見交換
 - (4) その他
7. その他
8. 閉 会



設立の背景

- 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -

「国の目標」

2050年 カーボンニュートラル

2030年度 46%削減（2013年度比）

「長野県の目標」

2050年 ゼロカーボン

2030年度 60%削減（2010年度比）

「富士見町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」⇒令和6年度（2024年度）

- ・ 本町の全事業者及び全町民を対象とした計画
- ・ 産業分野、家庭分野など、分野別に具体的な削減目標を設定

「富士見町脱炭素ビジョン」⇒令和5年度（2023年度）

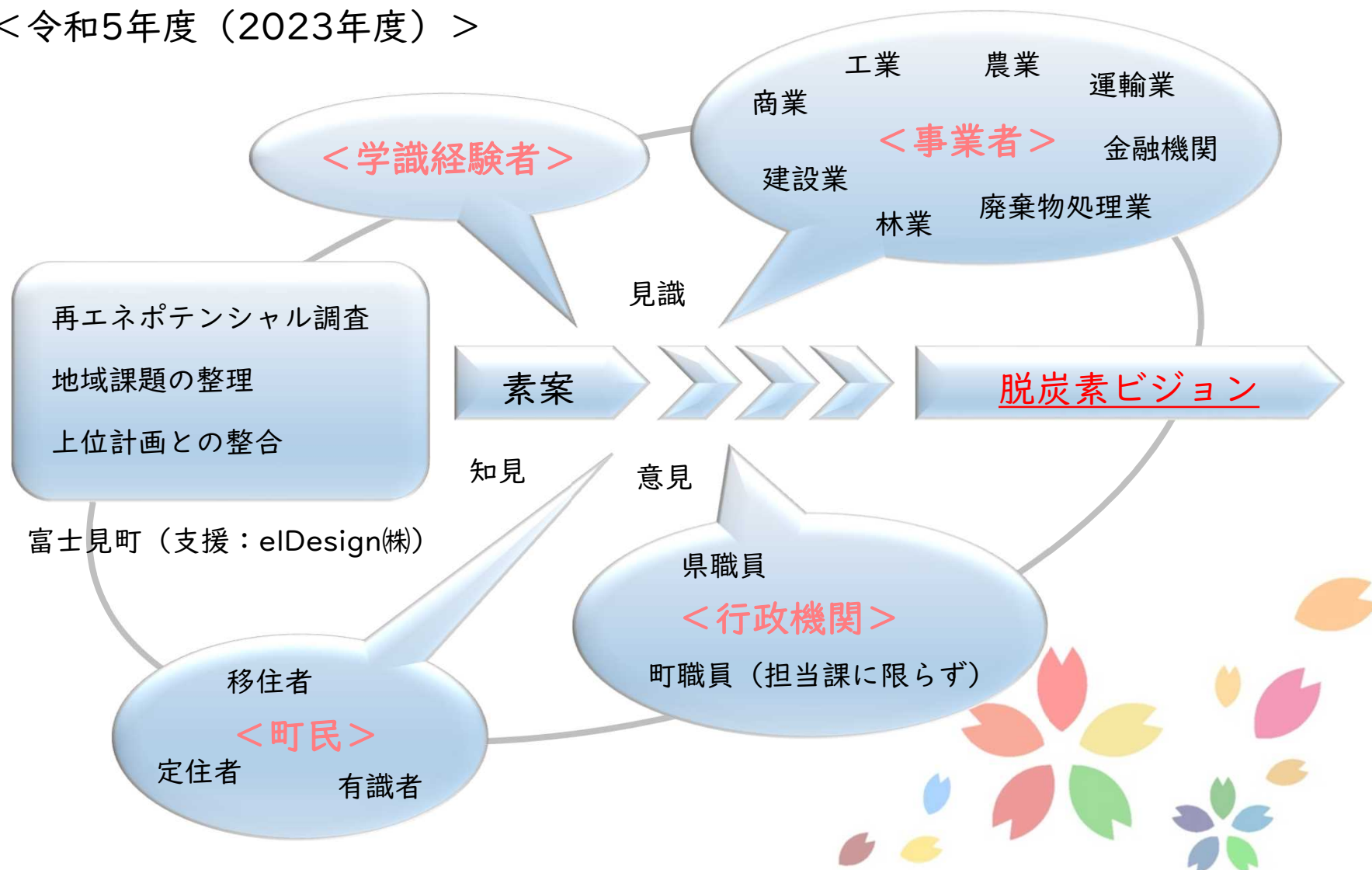
- ・ 本町における再生可能エネルギーのポテンシャル調査や地域課題の整理
- ・ 本町が取り組むべき施策や方向性を選定

事業者や町民の皆さまと策定・推進

「富士見町地球温暖化対策推進委員会」設立

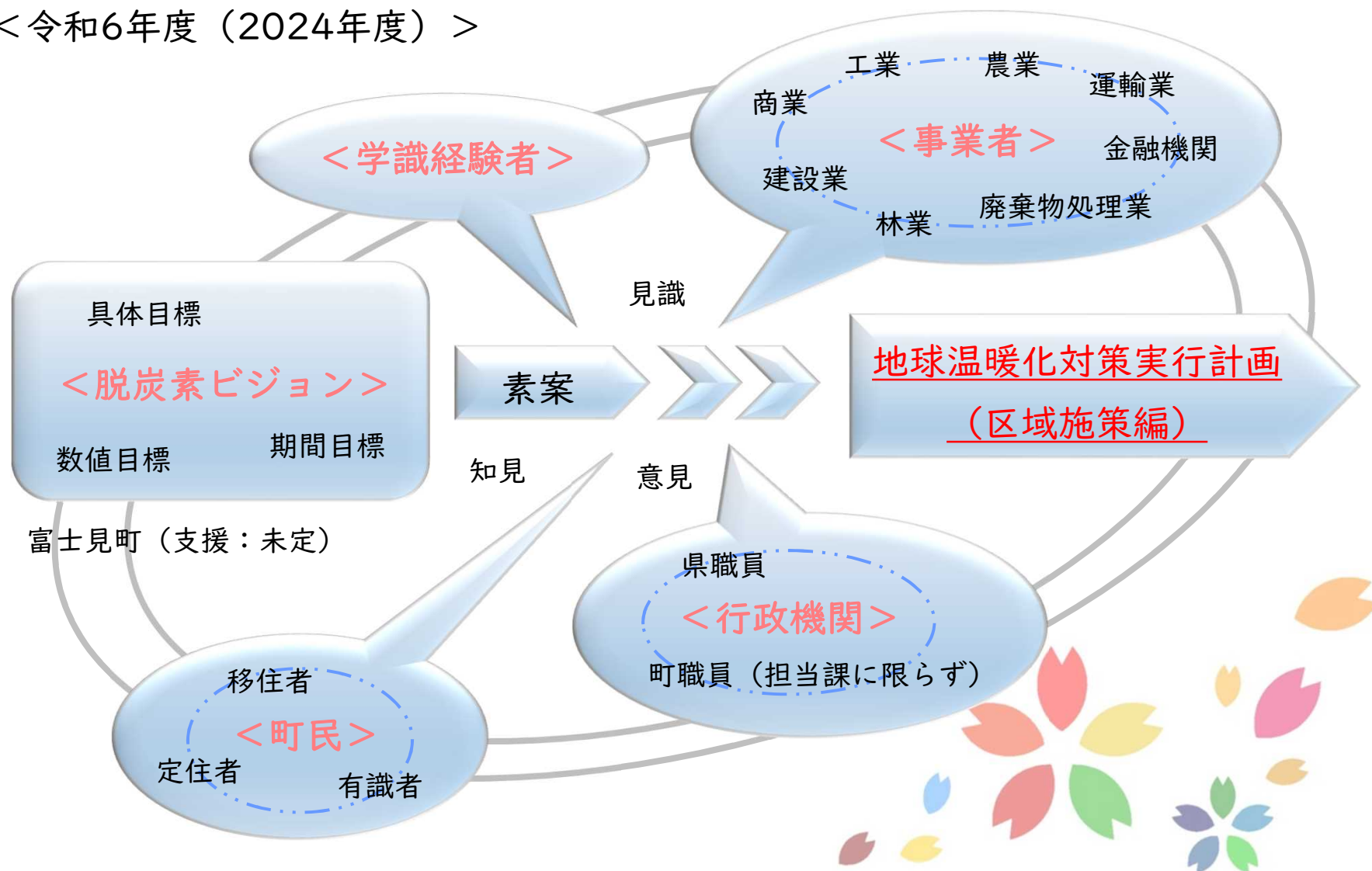
役割のイメージ - 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -

< 令和5年度（2023年度） >



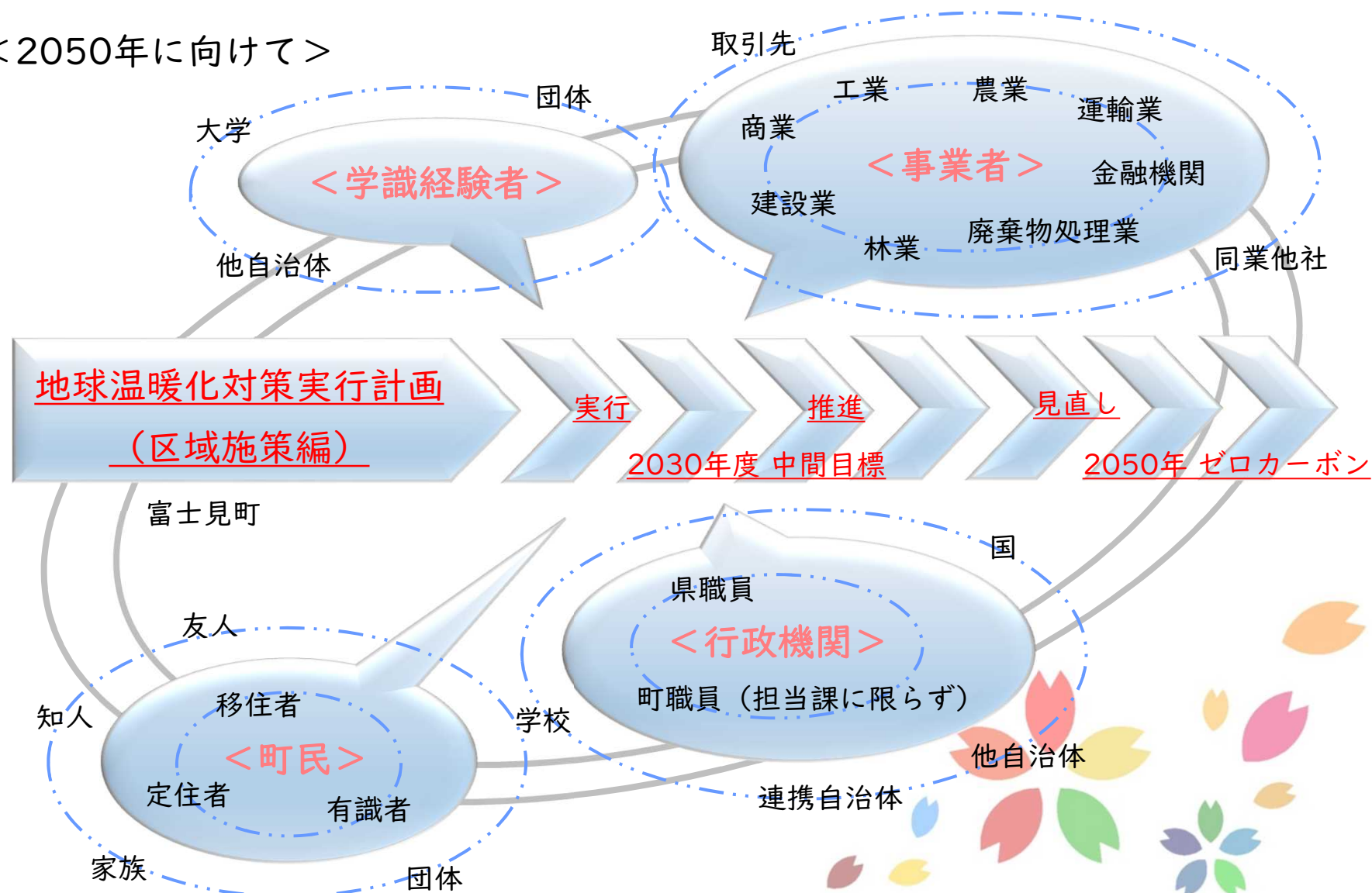
役割のイメージ - 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -

< 令和6年度（2024年度） >



役割のイメージ - 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -

<2050年に向けて>



目指す姿

－ 富士見町地球温暖化対策推進委員会 －

<未来を託す子どもたちのために>

- ・ 地球温暖化対策に係る住民意識の醸成（子どもため、孫のために）
- ・ 脱炭素に係る環境教育（子どもたち自身のため）

<地域と調和した分散型エネルギーモデルの構築>

- ・ 豊かな自然との共生（適切な森林の手入れ、未利用材の利用）
- ・ 地域と調和し、地域に裨益する再生可能エネルギーの推進

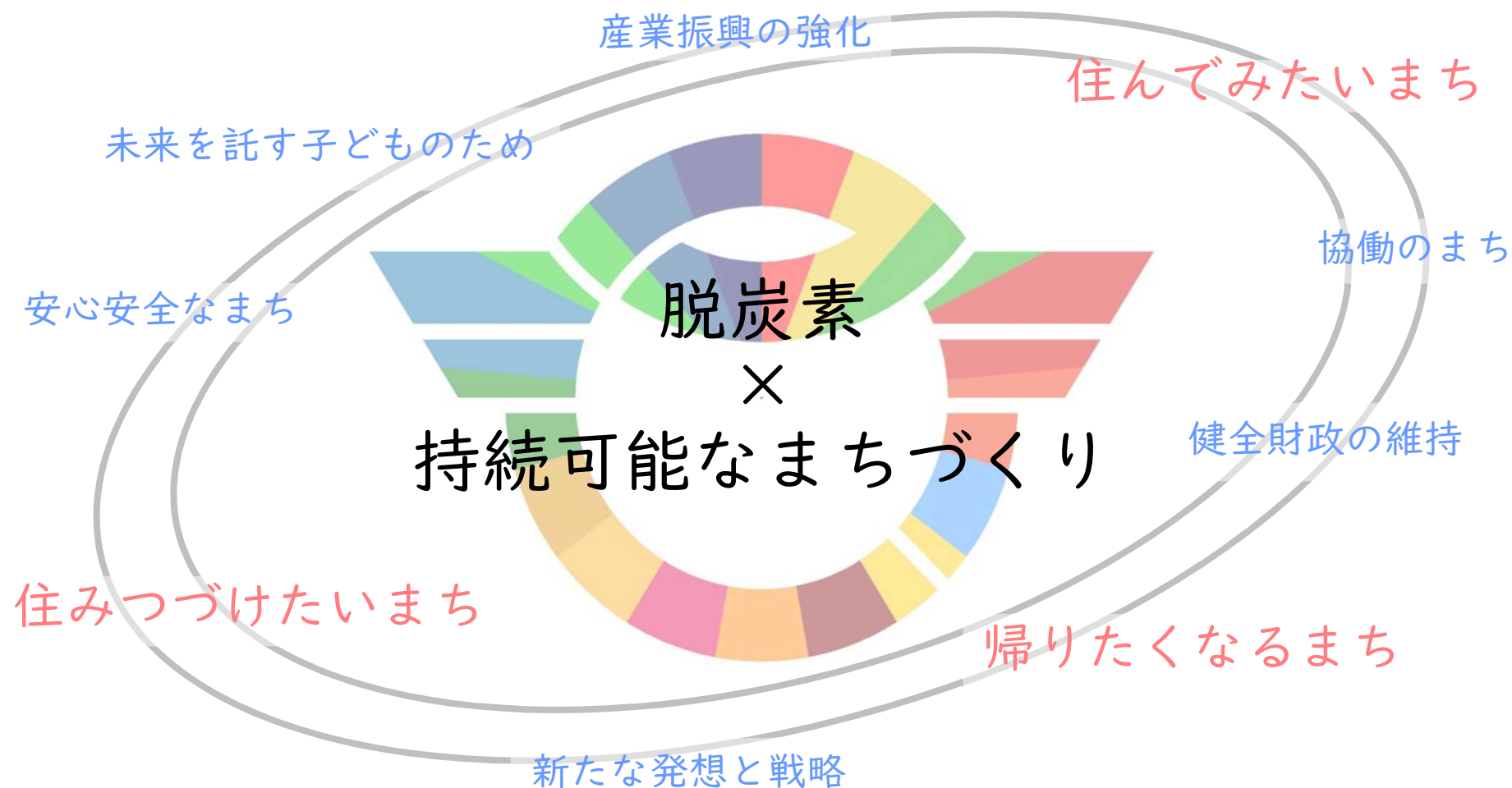
<地球温暖化と地域課題を同時解決>

- ・ 頻発・激甚化する災害に強い地域づくり（安心安全なまちづくり）
- ・ 資源循環の高度化を通じた循環経済への移行
- ・ 再生可能エネルギーの地産地消を進めることで地域内の経済循環を高め、地域経済を活性化する。

➡富士見町脱炭素ビジョンの策定を通じて具体化

目指す姿

- 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -



➡ 富士見町脱炭素ビジョンの策定を通じて具体化

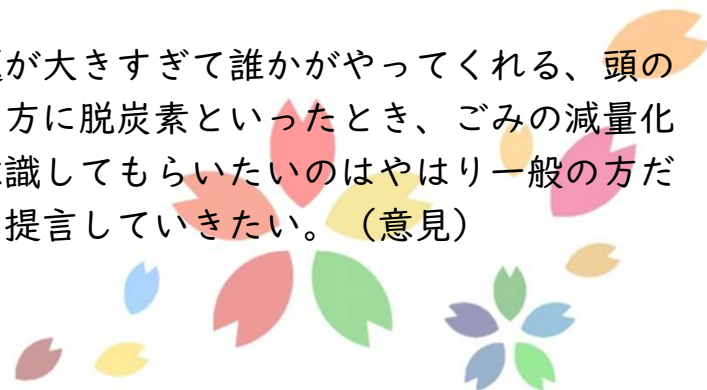
議事録

6. (1) 委員会の役割及び町の目指す姿について

事務局より、委員会の役割及び町の目指す姿について説明し、質疑応答を行いました。（資料①）

<質疑応答・意見>

- ・委員会の役割については非常に明快になっていると思う。計画を作りっぱなしにするのではなく、実施においても責任を果たしていくことが大事だと思う。（意見）
- ・資料①-P6の目指す姿は決定事項か。（質問）
⇒これは現時点の想定。委員会の中で項目の追記修正等の意見があれば柔軟に対応したい。（回答）
- ・地球温暖化というと世界の気候危機を指すと思うが、本委員会では富士見町で実現可能なことを提言していく認識でよいか。（質問）
⇒全世界で地球温暖化対策に取り組む中、国や県は道筋を示して支援を行っているが、実際に実行するのは私たち町民・事業者である。そういう意識についてもこれから醸成していきたい。（回答）
- ・町民の意識というのはとても大事なことだと思う。ただ、問題が大きすぎて誰かがやってくれる、頭のいい人たちがやってくれるだろうと大勢が思っている。一般の方に脱炭素といったとき、ごみの減量化やエコカーなど、そんな簡単なことしかない。しかし、一番意識してもらいたいのはやはり一般の方だと思う。だからこそ、その人たちに響くような具体的な内容を提言していきたい。（意見）



議事録

6. (1) 委員会の役割及び町の目指す姿について

- ・計画では、2050年ゼロカーボンを目指すとなっているが、企業は、自社のCO2排出量ゼロという枠は作れると思う。しかし、一般家庭も含めてゼロカーボンを目指すというのは非常に難しいと感じる。富士見町地球温暖化対策推進委員会の目指すゼロカーボンは、どこまでの範囲でゼロカーボンを目指すものか。（質問）

⇒先ほどのご意見でもあったように、一般の方の意識はまだそこまで高くなく、国が、偉い人が、誰かが何とかしてくださろうと思っている方が大半だと思う。しかし、こういった皆さんにもまずはゼロカーボン・カーボンニュートラル・脱炭素という言葉を知っていただくことから始め、一般家庭も含めて町全体で2050年ゼロカーボンを目指したい。（回答）

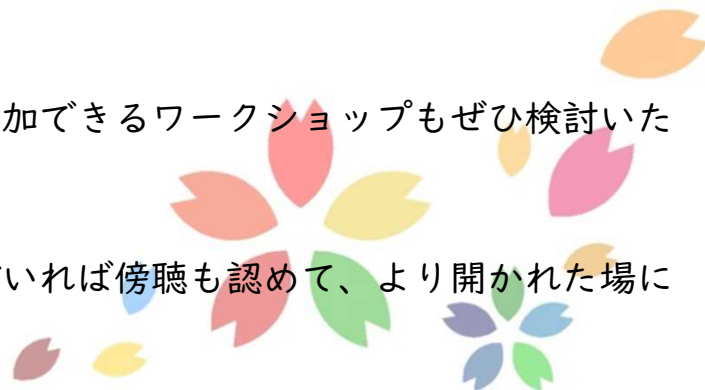
- ・自治体の実行計画では、計画は立派だが実行されないことがありがち。町民も企業も再エネを増やすなら、その担い手の育成も必要。より幅広い町民の巻き込み方を考えていく必要があると思う。（意見）

- ・今年度この委員会では、町民や企業参加型のワークショップ等の計画はあるか。（質問）

⇒本年度は、町民向けの講演会を計画している。（回答）

- ・講演会の検討ありがたい。また、加えて町民が自分事として参加できるワークショップもぜひ検討したい。（意見）

- ・委員会の議事録は公表されるということだが、希望する町民がいれば傍聴も認めて、より開かれた場にしたらどうか。（意見）



議事録

6. (1) 委員会の役割及び町の目指す姿について

- ・この計画の段階で、委員会に開かれたイメージがあれば、その後の取組みに対しても非常に有効だと思う。また、意識の醸成という意味では、町が掲げるビジョンや計画は限られた人しか意識をしていないのが現状。町の施策を町民一人ひとりに届けるのは、難しい部分ではあるが、町民の方に実際参加してもらうのは有効な手段だと思う。（意見）
- ・開かれた委員会は私も賛成。ただ、この会議を傍聴したいというのは関心がある人だが、全く関心のない人や、逆にこういった話題が嫌な人にも知ってもらう必要がある。最近の欧州やアメリカの流行は気候市民会議を開催し、関心の有無に関わらず指名制で参加していただき、自分の問題としてみんなで考えるという取組みがある。東京や他の地方でも事例があるので、そういった取組みも検討できれば面白い。（意見）



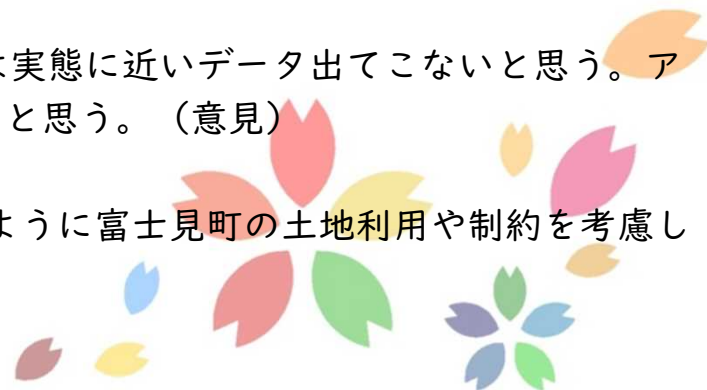
議事録

6. (2) 富士見町脱炭素ビジョンの概要について

elDesign株式会社（富士見町脱炭素ビジョン策定支援業務委託の請負者）より、富士見町脱炭素ビジョンの策定に係る概要を説明し、質疑応答を行いました。（資料②）

<質疑応答・意見>

- ・ 国や県の政策で富士見町の排出量がどれだけ減らせるかを明確にした上で、富士見町が自身でコントロールできる追加的な施策を検討するとよいと思う。町民が本当に担わなければならない部分を明確にしていく必要がある。（意見）
- ・ 資料にある富士見町のCO2排出量は、基本的に県の推計値の按分で算出されているので、やはり町民にとって手応え感のあるKPIや指標が必要。推計の上の数字の増減はあまり意味がないので、ビジョン策定の際には自分ごとになるような指標や表し方をぜひ検討してもらいたい。（意見）
⇒おっしゃる通り、国や県の施策の中には、自治体や地域で実行することが前提に含まれていることがあり、その切り分けは難しいが大事だと思う。そこは明確にしたい。（回答）
- ・ 先ほどの意見と重複するが、この資料のCO2排出量の推計では実態に近いデータ出てこないと思う。アンケートを取るなら、なるべく実態に沿う調査をした方がよいと思う。（意見）
- ・ 再エネもREPOSを使えばざっと出るが、ここに書かれているように富士見町の土地利用や制約を考慮して利用可能量算出するのは非常に重要だと思う。（意見）



- ・特に野立ての太陽光については、現在、町内全域が抑制区域となっており、その種の制約をどう考慮するのか。また、現在、富士見町にある太陽光発電施設のほとんどは、地域外の企業が所有しており、私たちの推計では、90%以上の利益が地域外に出ている。それではこの地域の経済の活性化に繋がらないので、いかに富士見町で経済を循環させるかといった、経済分析も連携してできればと思う。（意見）
- ・富士見町の特色はやはり日照だと思っている。先ほど話があった省エネや断熱改修も大事だが、太陽熱温水の利用もぜひ検討して欲しい。（意見）



議事録

6. (3) 意見交換

委員の皆さまに、各企業や団体の取組みについて紹介をいただき、意見交換を行いました。

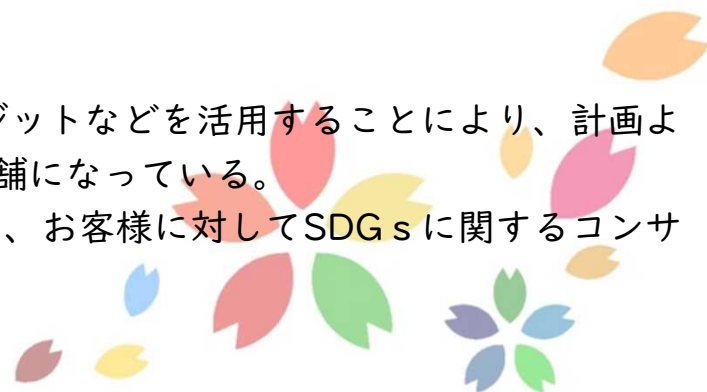
<各企業・団体の取組み>

○カゴメ株式会社（富士見工場）

- ・ ジュース製造工程で使用する蒸気を作る燃料を重油からLNGに変更した。これにより、燃焼時に発生するものがCO2と水分のみとなり、CO2は隣にあるハケ岳みらい菜園のトマト栽培用のハウスへ送ることで、排出量を削減している。残念ながら省エネ法では、CO2排出量の削減にはカウントされないが、CO2の有効利用という面で注目を集めている。
- ・ 工場の屋根に1100KWの太陽光パネルを設置し、電気購入量を削減している。また、購入する電気もCO2フリーに切替えた。
- ・ 熱利用に関しては、バイオマス処理よる発酵メタンを燃焼させて蒸気利用している。バイオマス原料は、ジュース製造用の不良原料や廃棄になったジュースパック、ハケ岳みらい菜園から出る不良果などを有効利用している。

○八十二銀行（富士見支店）

- ・ 先般、CO2排出量のネットゼロを達成した。カーボンクレジットなどを活用することにより、計画より1年前倒しで達成。昨年移転した富士見支店もネットゼロ店舗になっている。
- ・ 通常営業の中では、紙の削減など地道な取組みを続けており、お客様に対してSDGsに関するコンサルティング支援なども行っている。



議事録

6. (3) 意見交換

○諏訪信用金庫（富士見東支店・富士見支店）

- ・電気や紙の使用量を極力減らし、SDGsにも積極的に取り組んでいる。
- ・FIT期間を終える方への支援や、太陽光発電専用ローンなど再エネの普及に繋がる融資も積極的に行っている。

○株式会社みのり建設

- ・20年程前から環境事業として、富士見町の学校給食や諏訪湖の水草を堆肥化する事業を行ってる。これらを焼却せずに堆肥化して地域内の農地にできるだけ還元したい。
- ・最近では、森林整備をした際にこれまで利用されてこなかった枝葉を固形化して燃料として使うブリケット事業を開始した。ブリケットは、直径5cm長さ30cm程度の薪の代替材で、日本ではまだ流通量が少ないが、別荘地区など需要はあると思う。
- ・ハケ岳みらい菜園では、これまでトマト栽培用の液化CO₂をタンクローリーで買ってきていたが、カゴメからCO₂の供給を受けることで、購入する液化CO₂のコストを減らすと共に、輸送に係るCO₂の削減にもなっている。

○ヤマト運輸株式会社（諏訪富士見営業所）

- ・都市部はEVの導入が始まっている。しかし、県内は山間地域が多いため効率面で今のところは松本市内に限られる。
- ・クール宅急便の冷却方式の効率化や、文書のリサイクルにも取り組んでいる。
- ・現場では、ドライバーの運転技術でCO₂排出量がかなり違ってくるので、管理・教育にも力を入れている。

議事録

6. (3) 意見交換

○諏訪森林組合

- ・ 林業でCO2削減といえばやはり森林整備を進めることだと思う。以前は切捨間伐が主流だったが、10年程前から建材利用のため搬出されるようになった。最近では、間伐よりも主伐再生林に重点を置いている。ただ、再生林についてはこの地域だと獣害対策が必要で費用がかかることもあり、販売単価の良いときに切出し、その収入を利用して植栽する必要がある。
- ・ その他の事業としては、他地域の森林組合でペレット工場を持っており、バイオマス燃料としてペレット等を販売している。

○富士見財産区管理会

- ・ 富士見町が持つ資源として、CO2の吸収源である森林の機能を有効に使うべき。やはり30年、40年の樹齢迎えると吸収量が極端に落ちる。そこに向けて伐採、植林などについても考えたい。

○富士見町農業委員会

- ・ 現在は、農家として農地を守るために機械（燃料）を使ったり、出荷する野菜の保冷に電気を使っている。本委員会の中で、農業分野でできる取組みを勉強をさせていただきたい。

○富士見森のオフィス

- ・ 森のオフィスでは、いろいろな地域からの移住者の方が多いので、まずは富士見町のゴミ分別ルールを徹底してもらう取組みを行っている。
- ・ ふじみまち産業振興センターの取組みとして、昨年度、事業者用のCO2排出量可視化ツール（Carbon Dashboard）を開発した。現在は、これを利用する企業を募集している。

議事録

6. (3) 意見交換

○富士見まちづくりラボ

- ・富士見まちづくりラボは、こどもの未来をかんがえる会、富士見町商工会、合同会社きざしとのコンソーシアム組織で、エネルギー、森・食などの地域経済循環を促すまちづくり活動を行っている。
- ・地球温暖化対策については、町内の太陽光発電のマップ化及び土砂災害警戒区域のマップとの組み合わせ、地域経済分析、50年の森のビジョンを考えるプラットフォームを作っている。
- ・富士見町のゼロカーボンを考えていく上では、電気だけでなく、熱を再エネに変えていくことも重要で、森林整備の観点からもバイオマスエネルギーも重要。

<アドバイザー講評>

- ・クレジットを使用したCO2削減はトータルでは下がらない。もちろんそれがいけない訳ではないが、例えば、今は未開拓のCO2削減量やCO2吸収量に富士見ルールを設けて、富士見ブランドのようなものにできれば面白いと思う。
- ・富士見町でも先進的な取組みがたくさんあると思うので、それを町内だけでなく広く発信することでそれがブーメランとなって戻ってくることがある。面白い取組みがあれば、どんどん発信していくことが大事である。



次第

－ 令和5年度 第2回 富士見町地球温暖化対策推進委員会 －

日時：令和5年10月6日（金）13：30～

場所：富士見町役場 3階会議室

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 議 事

（1）脱炭素ビジョン検討に向けた調査状況について

（2）ゼロカーボンに向けた課題について

（3）ゼロカーボン×地域活性化に向けた総合的な議論について

（4）講演会・ワークショップの開催について

（5）その他

4. その他

5. 閉 会



議事録

3. (1) 脱炭素ビジョン検討に向けた調査状況について

■富士見町の現状と課題について（資料①P2-8）

○質疑応答・意見

- ・資料①P3の人口動態について、この標記だと誤解を招く可能性がある。ここは社人研の推計データではなく町総合計画の数値を使用すべき。（意見）



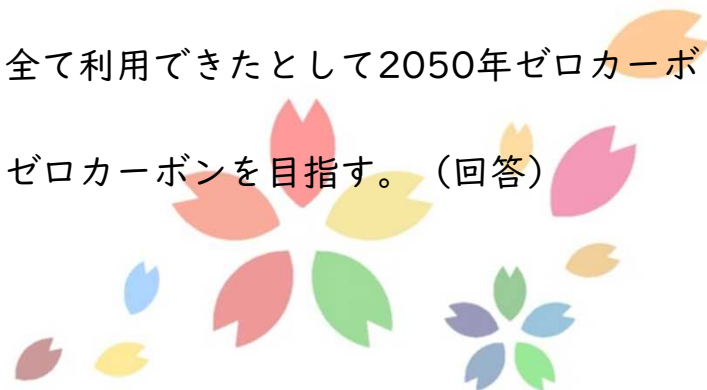
議事録

3. (1) 脱炭素ビジョン検討に向けた調査状況について

■脱炭素ビジョン検討に向けた調査状況について（資料①P9-25）

○質疑応答・意見

- ・ここに記載されているCO2排出量・吸収量は、都道府県別按分法によって算出されている。この推計では長野県における富士見町の人口で按分されているため、町が頑張ってもCO2排出量を削減しても数値として反映されない。来年度策定予定の実行計画（区域施策編）においては出来るだけ積上による補正を検討すべき。（意見）
- ・資料①P14～のポテンシャルについて、全体的に控えめではないか。長野県のゼロカーボン戦略では、2050年には全ての建物の屋根に太陽光パネルを設置するという目標だが、こちらは30%になっている。また、ソーラーシェアリングなどは農業と両立・推進することが出来るため、もう少し野心的にポテンシャルを積んでもよいと思う。林業においても、今の経営計画がベースではなく、今後の林業推進を踏まえてもっと前向きにポテンシャルを推計すべき。（意見）
- ・資料①P14のポテンシャルについて、仮にこのポテンシャルを全て利用できたとして2050年ゼロカーボンが達成出来るのか。（質問）
⇒現在のエネルギー使用状況では難しい。省エネ施策も含めてゼロカーボンを目指す。（回答）



議事録

3. (1) 脱炭素ビジョン検討に向けた調査状況について

- ・資料①P10の推計データについて、2013年のを引用しているが、現在は企業努力によって使用電力は全てCO2フリーになっている。データが古いと見る方に誤解を与えないか。（質問）
⇒これは国の基準年度に合わせて2013年の数値を記載している。このあと説明するシナリオの中で直近のデータを見せていく。（回答）
- ・森林のCO2吸収について、国有林・民有林という区分けではなく、天然林・人工林という区分けにすべき。天然林は手を入れる必要がないが、人工林は手を入れることが保全になる。（意見）
- ・資料①P23について、A材・B材という記載があるが、森林資源の有効利用というところで枝葉の利用についても、可能性として付け加えていただきたい。（意見）



議事録

3. (1) 脱炭素ビジョン検討に向けた調査状況について

■ゼロカーボン実現に向けた将来シナリオ分析について（資料①P26-37）

○質疑応答・意見

- ・ 資料①P33～の先導シナリオについて、各部門のシナリオは何に基づいて設定しているのか。（質問）
⇒現時点では、他自治体のシナリオを参考に前回の委員会での意見も踏まえ記載している。今後、調整していく予定。（回答）
- ・ 家庭部門のシナリオについては、長野県が推進する新築住宅に係る施策等、いろいろな意見を取り入れていただきたい。（意見）
- ・ 計画を策定して実行していく上では、町が出来ることの範囲を明確にするべき。国や県の施策と、町の施策を主体別に切り分け、守備（責任）範囲を明確にしておいた方が、実行しやすい計画になる。（意見）
- ・ 資料①P10を見ると、富士見町においては産業部門の割合が非常に大きい。守備範囲ということと言うと、富士見町では産業部門の施策が少ないとゼロカーボンの達成が難しくなる。それについての考えは。（質問）
⇒産業部門に関して、大口事業所4件についてはすでに積極的に取組みが進んでいる認識。社会情勢シナリオに反映される。（回答）
- ・ シナリオの見せ方について、省エネと再エネを分けて表記した方が分かりやすい。（意見）

議事録

3. (1) 脱炭素ビジョン検討に向けた調査状況について

- ・シナリオの考え方について、産業部門・業務部門では県の目標で年平均2%・3%低減とあるが、町内事業者の多く（中小企業）は県の制度の枠外にある。そういった意味では町がやるべきことは多い。（意見）
- ・資料①P37の地域エネルギー収支分析の根拠を示した方がよい。（意見）
- ・現在、再生可能エネルギーの事業主体はほぼ地域外の事業者である。地域経済循環の観点では、再生可能エネルギーを導入しても域外にお金が出てる。富士見町内にそういった事業者が必要。（意見）



議事録

3. (2) ゼロカーボンに向けた課題について

■ゼロカーボン実現に向けた地域住民の意向について（資料①P38-51）

○質疑応答・意見

- ・アンケート調査の中でメリットに触れていたが、ゼロカーボンは地球規模の問題意識で行われており、メリット・デメリットだけではない。個人に対するメリット・デメリットだけではなく、抱えている問題点をもう少し出していただきたいかった。（意見）



■ゼロカーボン× 地域活性化に向けた議論について（資料①P52-60）

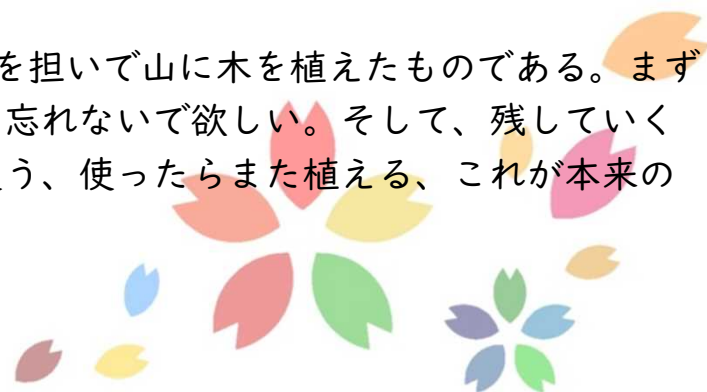
○質疑応答・意見

- ・エネルギー使用量等の推計を按分方式で行うことに疑問がある。町内におけるエネルギーの実使用量が把握できなければ、どこを削るかといったようなことも見えてこないのでは。（質問）
⇒今回の試算はあくまで全体量を把握するために、按分方式で行っている。ただ、来年度以降、実行計画（区域施策編）を策定する中では、按分方式に積上方式を組み合わせるなど、検討を進めたい。（回答）
- ・富士見町においては、産業部門の次に運輸部門のCO2排出量が多い。一方、アンケート調査結果においては、運輸部門に対する関心が低い状況が見受けられる。ここの住民意識を高めつつ地域特性を踏まえた運輸部門の施策が重要になると考える。（意見）
- ・運輸部門において、全国的にはEV車での集配送が開始されているが、富士見町の特徴（地理・気候）を考えるとEV車というのは難しい面がある。国の方針で再配達を削減する施策が開始される見込みだが、運送事業者も効率的な運用を検討するなど取り組みを強化している。（意見）
- ・富士見町脱炭素ビジョンへの記載について、なぜこれに取り組むのかといったことは書いておく必要がある。特に、災害や農作物への影響といった適応策の記載はしておくべき。（意見）

議事録

3. (3) ゼロカーボン×地域活性化に向けた総合的な議論について

- ・先ほど話があった、産業部門における町の中小企業に対する施策や、スマート農業を景観保全・防災と関連付けて考えることも必要だと思う。また、アンケート調査で住民意識が低かった一般家庭のEV化や、逆に関心が高かった食品ロス等のごみ対策を徹底的にやるといったことも考えられる。それと、屋根ソーラーについてもせっかく全国的に発電に向いている地域なので、もっと期待をもってよいと思う。
(意見)
- ・スマート農業や営農型ソーラーの話が出たが、富士見町が標高1000mから700mの中山間地域であることを理解しなければならない。農業用水路も水田を使う期間以外は水を流していないので、発電には適さない。営農型ソーラーにおいても、下で何を作るのか、降雪時はどうするのかなど、富士見町の地域特性に合った具体施策の検討をしていただけるとありがたい。(意見)
- ・農業に関連して、化成肥料は生産時に多くのCO2を排出するため、化成肥料を削減することでもゼロカーボンに貢献できるのでは。(意見)
- ・富士見町内の森林の約7割を占める人工林は、戦後、先人が苗を担いで山に木を植えたものである。まずは、そこにある木が目的を持って植えられたものであることを忘れないで欲しい。そして、残していくだけが保全ではない。人工林に関しては、育てて、切って、使う、使ったらまた植える、これが本来の保全の姿である。(意見)



議事録

3. (3) ゼロカーボン×地域活性化に向けた総合的な議論について

- ・EVに関しては、私はこんなに向かない地域はないと思っている。EVの話をするにしても、夏冬の寒暖差、起伏の多い地形など、富士見町の気候や地形に合った富士見モデルのEV施策を検討することが重要だと考える。（意見）
- ・資料①P34-36の先導シナリオの考え方について、今後、使用電力の再エネ化や化石燃料からバイオマス燃料への転換等によるエネルギーの脱炭素化が進むなど、現状のものがいろいろ変わっていく想定がされている。各家庭においては、バイオマス燃料への転換に関する補助や、既存の太陽光発電設備の故障に伴う修理等に関する補助はあるか。（質問）
⇒現状、町にそれらの補助制度はない。しかし、今後の施策を検討する中で、町としてゼロカーボンを目指すために必要と判断されるようなものについては、協議の上、施策として実行していきたい。ただし、ゼロカーボン達成のために何でも町が補助金を出し続けることがベストか考える必要がある。限られた財政運営の中で他の何かが犠牲になる可能性もある。これらのバランスや限界はあるが、ゼロカーボンのために出来ることは実施していきたい。（回答）
- ・町と企業と市民それぞれの役割はあると思うが、県の下水処理場の屋根貸し事業のように、行政がお金を出さずに出来ることもある。例えば、町有施設でも同じことができる。ただし、今の段階でそれを募集してしまうと、町の事業者がいないので地域経済循環的には良くない。こういった事業において、公共施設は資金調達の面でも新たな事業者が実績を積むのに向いている。いづれにしても、事業者の収益の一部を地域に還元する工夫をすることで、町がお金を出さなくても地域のためになることが出来る。（意見）

議事録

3. (3) ゼロカーボン×地域活性化に向けた総合的な議論について

- ・補助金について、県でも町でもそうだが現行の補助制度は金持ち支援になっている。一定以上の資金を持っている人しか事業実施して補助がもらえない。例えば、町営住宅などに断熱窓や太陽光発電設備を入れるなど省エネ住宅にすることで、所得の低い人たちの支援なと思う。（意見）
- ・需要を束ねて一つのものを多機能にしていく視点を、脱炭素ビジョンに入れていただきたい。（意見）
- ・東京都が屋根ソーラー義務化で大騒ぎになったのは記憶に新しい。ただ、あれは発信の仕方が悪かったと言う方もいる。義務化と言うと悪く聞こえるが、実は全ての方に行き渡るので当然公営住宅にも屋根ソーラーが入ることになる。ゼロカーボンに向けて住民の皆さんに協力をいただくには、情報収集や情報発信の仕方が非常に重要になると思う。（意見）
- ・先ほど話が合った「富士見モデル」という考えはとても大事だと思う。例えば、ハウス農家やEVの話があったが、まずはモデルを作ってモニターとして脱炭素施策を実施してもらい、その結果（成功点・失敗点など）をシェアすることは有用で、行政としても可能性を広げることが出来る。（意見）
- ・先ほどの化成肥料の削減の話に関連して、化成肥料を使わずに温室の暖房を再エネで賄うなどして作物を栽培できれば、それを買った人のCO2排出量も削減できるのでブランド化して産業に繋げることもできるのでは。そういったスコープ3削減の視点も、脱炭素ビジョンの中に入れてもよいと思う。（意見）

議事録

3. (4) 講演会・ワークショップの開催について

■講演会・ワークショップの開催について

- ・ 前回の委員会でお知らせした小林先生の講演会と合わせて、中島副委員長から提案のあったワークショップを開催する予定。

- ・ 概要は以下のとおり。

日時：令和5年11月7日（火）14：00～（開場13：30～）

場所：コミュニティプラザ 2階大会議室

内容：①基調講演（小林先生）

「エコハウスのおいしいところ・困ったところ」

②パネルディスカッション（中島副委員長）

「富士見町での家づくりの現場からエコハウスを考える」

③ワークショップ（中島副委員長）

「誰でもエコハウスに住むことができる富士見町を実現する
政策とビジネスモデルを考える」

対象：住民・事業者

- ・ 詳細は、町ホームページや有線放送などでお知らせする予定。



議事録

3. (5) その他

■委員の皆さまからの連絡事項について

○中島副委員長より（富士見まちづくりラボのイベント紹介）

- ・富士見まちづくりラボで、10月19日に森のビジョンを考える第5回勉強会を開催する。
- ・森から100の仕事が生まれるというテーマで、全国で活躍されてる古川さんを講師に迎え講演をいただく。
- ・後半は富士見町で森に関わる仕事や取り組みをされている何名かの方に、活動を紹介していただく。
- ・森の知見を生かして地域内経済循環を作っていくことが、地域を豊かにすることに繋がっていくと思う。ぜひ、皆さんも参加いただければありがたい。語る



次第

－ 富士見町地球温暖化対策推進セミナー －

日時：令和5年11月7日（火）14：00～

場所：コミュニティプラザ 2階大会議室

1. 開 会（14：00）

2. 挨拶

3. セミナー

（1）基調講演（14：10-14：45）

講師 東京大学先端科学技術研究センター 研究顧問 小林 光 先生

（2）パネルディスカッション（14：45-15：25）

パネラー 建築関係事業者さま

（3）休憩（15：25-15：35）

（4）ワークショップ（15：35-16：25）

各グループ 皆さま

4. その他

5. 閉 会（16：30）



ワークショップの結果 (Aグループ)

町民の方への見せ方

- ・健康
- ・暮らしの豊かさ
- ・節約

富士見町は「賃貸」が少ない
「賃貸」は断熱がしにくい！！

町営のエコハウスがあったらいいな！！

(参考) 神山町大埜地住宅

蓄電池

太陽光パネルを載せるのが高い

→上田市民エネルギー
のように
載せるハードルを下げる
サポート

補助金をもっと
多めにもらえれば
使いやすいのでは

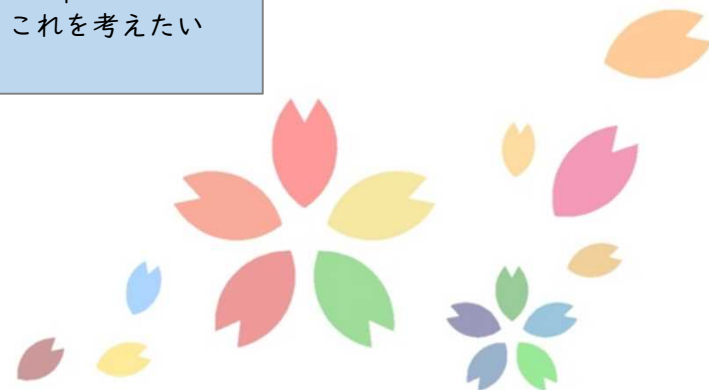
1部 地球温暖化対策を考えることは
自分の生活に直結している。
両輪で検討していく興味を持った。

2部 現場ではインシヤルコストが問題。
ランニングで回収(20年)できる
とはいえネックになると思う。
お金の補助が必要。
ただし、早く始めることが重要
だと思う。

脱炭素だけではない
× ○○ が効果的
↑
これを考えたい

公共施設の
断熱WS！！
(ワークショップ)

健康面でのアピール
とコラボ



ワークショップの結果（Bグループ）

○リフォーム補助金

- ・限られている予算の中で単なる拡充は難しい。
- ・通常通りのリフォーム補助金は廃止し、省エネ補助金のみとして運用していくことは。

○アドバイザーの確立

- ・常駐は難しくとも、相談会の開催など、住民が相談できる体制の確立が必要。
- ・断熱による費用対効果の見える化などが必要。



ワークショップの結果 (C・Dグループ)

賃貸住宅もエコにできる制度設計

- ・ 家賃の光熱費の明示
- ・ 家賃の光熱費をトータルで支払う制度
- ・ 条例で義務化

太陽光パネルに対する補助

- ・ 省エネの計算の支援
何年で元が取れるか？

ローカルの地域で「回す」

たとえば富士見の林材を使うと
補助するとか

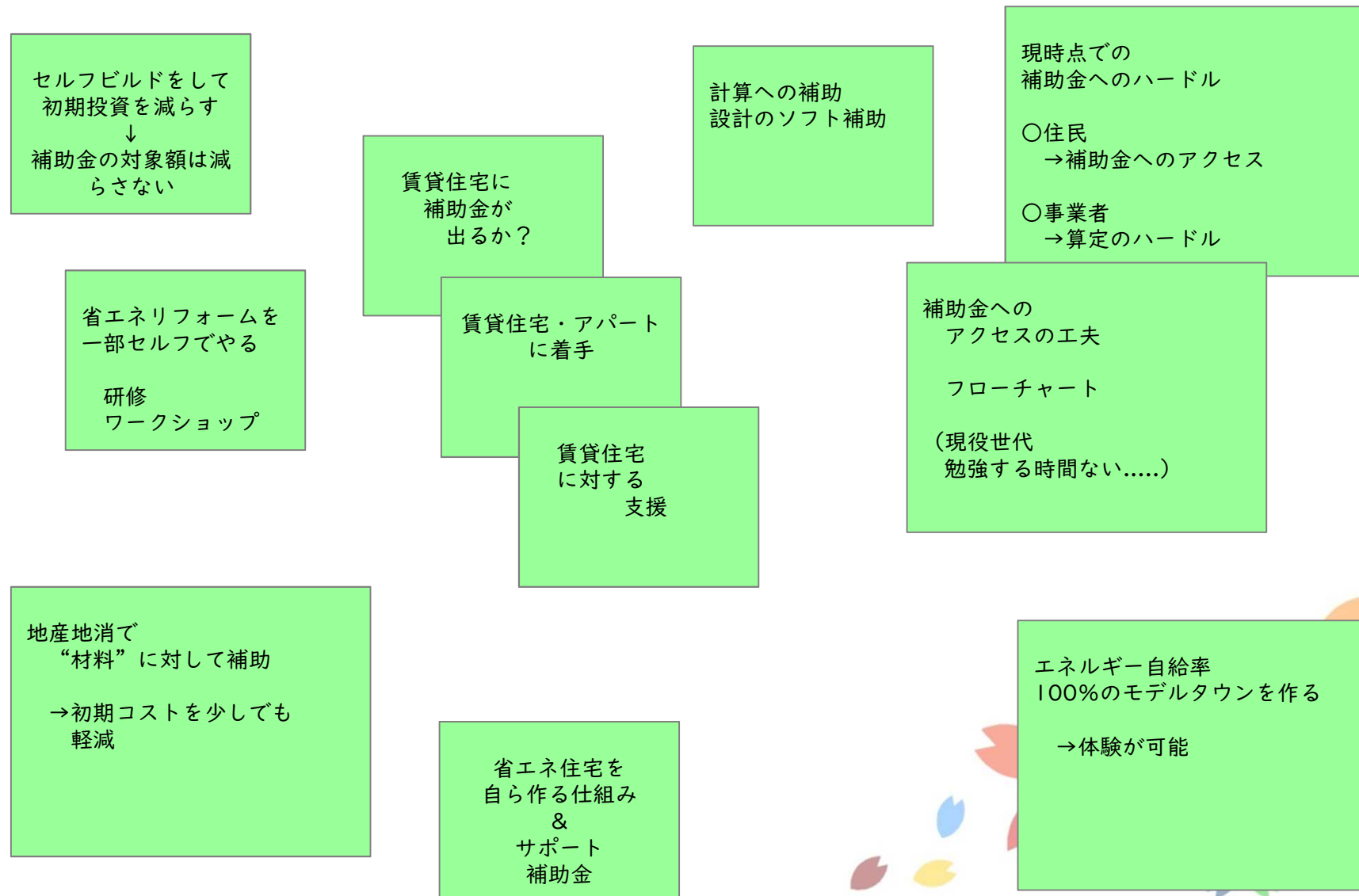
エコ・ビジネス（林業）

既存制度の周知

設備が高額
補助



ワークショップの結果 (Eグループ)



ワークショップの結果 (F・Gグループ)

省エネ性能が上がったことを
確認するツールの拡充

→対応資機材を増やしていく
必要

＝ハードルを下げる

省エネ住宅のメリットを
周知する。

→家を建てる人の多くは省エネ
にメリットを感じていない？

→広がらない

省エネ住宅体験

補助金の
対象者を広げる

対象者の状況
(年齢・所得)
に応じた

補助率の設定

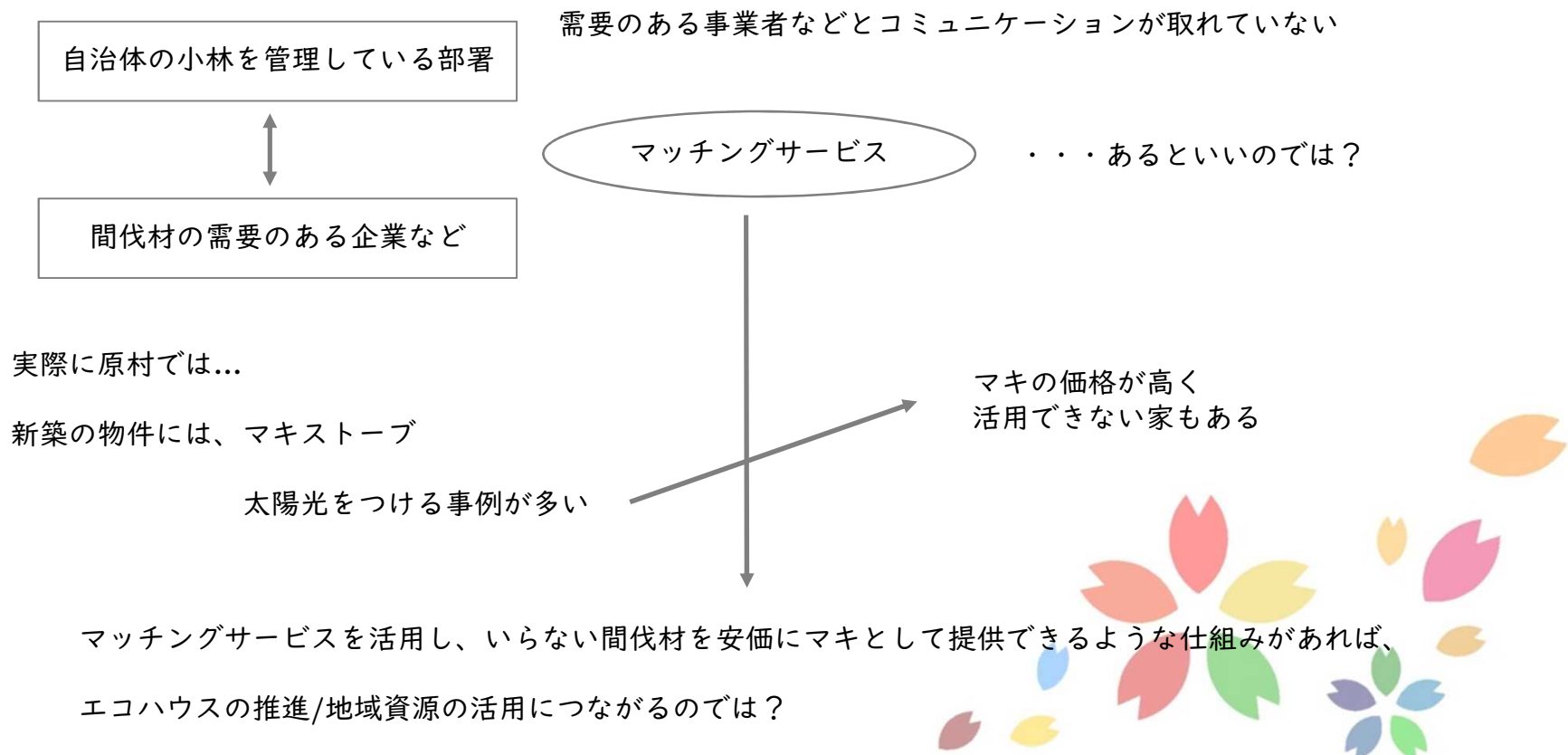


ワークショップの結果 (F・Hグループ)

今ある資源を活用できないか...

県・・・間伐材をどうするかという課題

富士見町・・・同様の潜在的な課題があるのではないかと...



次第

－ 令和5年度 第3回 富士見町地球温暖化対策推進委員会 －

日時：令和5年12月18日（月）13：30～

場所：富士見町役場 3階会議室

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事
 - (1) パブリックコメントの結果について
 - (2) 富士見町脱炭素ビジョン（案）について
4. その他
5. 閉 会



議事録

3. (1) パブリックコメントの結果について

■パブリックコメントの結果について（資料①）

- ・富士見町脱炭素ビジョン（案）について、令和5年11月20日（月）から令和5年12月8日（金）まで、パブリックコメントを受け付け、5名の方からご意見をいただいた。
- ・事務局より、パブリックコメントの概要と回答（案）について説明した。回答（案）に対する修正提案はなし。近日中に、町ホームページにて公開する。



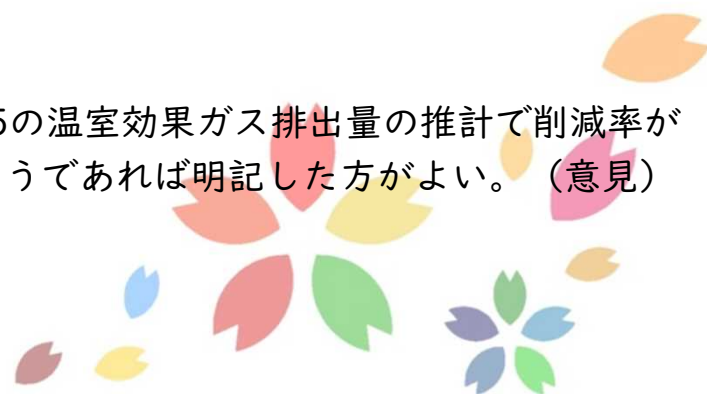
議事録

3. (2) 富士見町脱炭素ビジョン（案）について

- 1. 本ビジョン策定の背景と位置づけ（資料②P4-5）
- 2. 基礎情報の収集および現状分析（資料②P6-50）
- 3. 将来の温室効果ガス排出・吸収量に関する推計（資料②P51-65）

○質疑応答・意見

- ・ P19からの推計において、基準年（2013年度）と直近年（2023年度）が比較できる構成になっているのはよい。（意見）
- ・ P23の家庭部門の再エネ消費量の割合が2013年度・2020年度とも2%で変わっていない。屋根置き太陽光が増えればこの割合も増えると思うがなぜか。（質問）
⇒出所元のデータを確認する。（回答）
- ・ P33の再エネ導入量（例えば2021年度の45,126kW）は、P31の期待可採量（582,366kW）に含まれないという説明だったが、これは含まれるのでは。（意見）
- ・ BAUシナリオにおいて、P54のエネルギー消費量の推計とP55の温室効果ガス排出量の推計で削減率が違う。これはおそらく排出係数を下げていると推測するが、そうであれば明記した方がよい。（意見）



議事録

3. (2) 富士見町脱炭素ビジョン（案）について

- ・ P56の脱炭素シナリオについて、家庭部門で「全体でゼロエネ」という記載があるがどういう意味か。
この表現だと富士見町の方が県より厳しい基準を設けているように見える。富士見町の事業者や家庭にとって本当に目指せる目標なのか議論した方がよい。（質問・意見）
⇒この記載については、長野県ゼロカーボン戦略ロードマップ（2023年11月）を参照している認識。
再度整合を確認する。（回答）
- ・ P60の森林吸収推計について、町の森林計画では2050年までのものはないと思うがどうやって推計したのか。また推計の根拠も記載した方がよい。（質問・意見）
⇒町の担当課にヒアリングして試算している。その部分も丁寧に記載する。（回答）
- ・ 現在、化石燃料にどれくらい依存しているのか、それをいかに再エネに変えていけるかといった部分が読み取りにくい。（意見）
⇒P20に燃料種別エネルギー消費量を記載しているが、2020年以降の推移については記載がないので追記を検討する。（回答）



議事録

3. (2) 富士見町脱炭素ビジョン（案）について

- 4. ゼロカーボン実現に向けた将来ビジョン（資料②P66-67）
- 5. ゼロカーボン実現に向けた施策（資料②P68-84）
- 6. 計画の推進体制（資料②P85）
- 7. 参考資料（資料②P86-94）

○質疑応答・意見

- ・ 脱炭素ビジョン策定といった意味では、目標というか目指す姿や考え方は明確にしておく必要がある。また、何をどこまでやるかといった具体施策は、実行計画でやるということをもっと強調すべき。一方で、P71以降の施策例を挙げてあるがこの書き方は先取りしすぎている感がある。これは資料編でもよいのでは。（意見）
- ・ P66とP69の2か所に将来ビジョンという表現が出てくるので混乱を招く。また、P67の基本方針がとても中途半端に思える。基本方針④の地域経済循環は基本方針と言えると思うが、省エネ・再エネ・森林吸収は当たり前すぎるので、様々な地域課題を同時解決できるようなものを基本方針に据えるべきだと思う。（意見）
- ・ P70の重点施策に人材育成・ネットワーク・教育とあるが、これも基本方針というか柱になるのでは。いかに町の皆さまに知っていただくかが重要になる。（意見）
⇒人材教育は重要なポイントであるので、基本方針としてうたうか検討する。（回答）

議事録

3. (2) 富士見町脱炭素ビジョン（案）について

- ・ P85の推進体制に関係行政機関とあるが、近隣の茅野市・原村とすでに連携されていると思うが、例えばP67の基本方針を揃えるとか、どの程度の連携を見込んでいるか。（質問）
⇒茅野市・原村と基本方針まではリンクしていないが、P66に記載の目指す姿～豊かな自然環境と共生する脱炭素のまち～は、茅野市・原村・富士見町で行ったハケ岳西麓の共同宣言とリンクしている。
それぞれの市町村で基本方針は違ったとしても目指す姿は一致している認識。（回答）
- ・ 県のレベルに肩を並べてやっていくのは大前提だと思うが、まずは富士見町からゼロカーボン、自分のところは自分でという考えでやっていく必要がある。P10にも記載があるように、この先確実に高齢化することが分かっているなので、今体力があるうちに始めないと遅い。強い意志が必要。（意見）
- ・ 農業部門においては実際今後何をしていけばいいのか分からない。ソーラーシェアリングという記載はあるがそれだけなのか。（意見）
⇒具体的な施策については、来年度策定を予定している富士見町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の中で検討していく。逆に、各分野で盛り込みたい内容があれば皆さまから提案をいただきたい。（回答）
- ・ 違和感を感じたのがP66、P68、P69の農業分野で順番が違うと思う。担い手不足の跡を補ってるのが農業生産法人だが、その方たちはまだまだ耕作地が欲しくて探している。まずは富士見町の農地の問題点を解決し、きちんと収益上がるような農地を作っていくことが一番。その次が、電動化やソーラーシェアリングだと思う。（意見）

議事録

3. (2) 富士見町脱炭素ビジョン（案）について

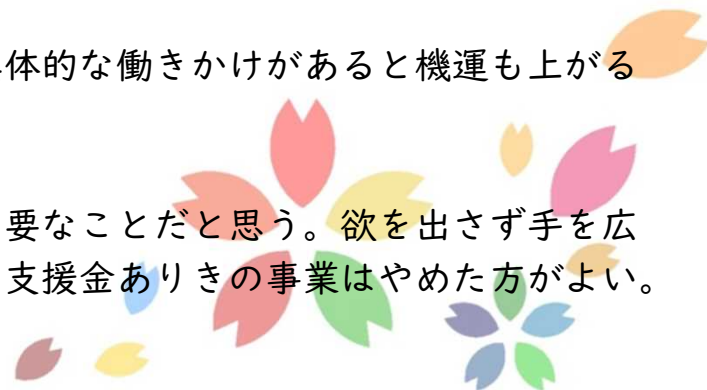
- ・ バイオマスボイラーの話は賛成。富士見町の素晴らしいところは、農業、林業、工業、観光がバランスよくあるところだと思う。独自の具体的プランを作るとすれば、そういった森林資源を再生してバイオマスボイラーを普及させて、施設園芸も盛んなので冬の暖房に使ってもらうとか、観光施設や工業施設もボイラー使用できるのではないかな。またそういった施設から出たCO2も回収できれば農業利用できる。（意見）
- ・ P67の基本方針だが、製造業の競争力を強化することと脱炭素を一体化することは重要。富士見町は中小企業が多いので、初期投資をゼロまたは軽減するような支援策を進めることで競争力を上げたい。（意見）
- ・ 前回の地球温暖化対策セミナーでもエコハウスを題材にしたが、町内の建築業を支援していくような視点も重要だと思う。また、セミナーで実際に議論されたことなどもしっかりと掲載すべき。（意見）
- ・ 所得にかかわらず脱炭素のメリットが受けられるような、例えば町営住宅等の脱炭素化、断熱強化をしていくような視点も必要だと思う。（意見）
- ・ P85の推進体制だが、富士見町役場のところが、事務局と関係各課になっている。ここは連携というだけでなくチームを作り体制を強化していただきたい。また、コンサルではなく職員が政策を考えていけるような体制づくりを。（意見）



議事録

3. (2) 富士見町脱炭素ビジョン（案）について

- ・この資料をパッと見た時に、富士見町の将来ビジョンだということが分かりにくい。“らしさ”の部分、その辺が伝わる表現を一つ二つ入れるだけで全然違うと思う。また、この場で出た意見やセミナーで出た意見をローカライズしたような事例を載せた方が、このビジョンが富士見らしいものになると思う。（意見）
- ・P71に記載の事例は本当に理想。しかしコストが非常に掛かる。住宅を建築する施主に対してしっかりとした支援をお願いしたい。（意見）
- ・巻末の用語集はありがたい。（意見）
- ・環境対策をする製造業の負担軽減が図れるものはないか。例えばオンサイトPPAのような仕組みをセミナーで周知するとか、また個人や家庭においてもそうだが、成果が見える化できると意識が高まると思う。（意見）
- ・現時点で富士見町民が何をしたらよいか分からない。何か具体的な働きかけがあると機運も上がるのでは。（意見）
- ・バイオマスに関しては、やはり考えていかなければならない重要なことだと思う。欲を出さず手を広げすぎず町内で循環できる完結できる規模が望ましい。また、支援金ありきの事業はやめた方がよい。そういったものを始めると必ず制約が出る。（意見）



議事録

3. (2) 富士見町脱炭素ビジョン（案）について

- ・やはり、町民が将来何をしたら良いかが見えてこない。P67に書かれた基本方針ではただの取組項目に見える。県の施策を率先して実行するというのは当たり前なので柱書として、例えば町民事業者の意識を高めてその参加を得るとか、地球環境保全の責任を果たしていくとか、そういった大きな考えや取り組みをすすめる上での哲学をここに入れるべき。富士見町の目指すべき姿ということで、今まで出た意見を収まりどころとしては。（意見）



議事録

4.その他



■委員の皆さまからの連絡事項について

○中島副委員長より（富士見まちづくりラボのイベント紹介）

- ・富士見まちづくりラボで、12月21日にPPA勉強会を開催する。
- ・初期投資ゼロで補助金に頼ることなく太陽光の設置を促すためのもの。皆さんも参加いただければありがたい。



次第

－ 令和5年度 第4回 富士見町地球温暖化対策推進委員会 －

日時：令和6年1月26日（金）10：00～

場所：富士見町役場 3階会議室

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 議 事

（1）富士見町脱炭素ビジョン（完成版）の説明について

（2）来年度に向けた今後の予定と意見交換について

（3）その他

4. その他

5. 閉 会

